

いきもの広場

① ユズの実



春から秋にかけて、アゲハチョウの幼虫の餌や成虫の産卵場所となったユズの木に、たくさんの実がつけました。

② ハラビロカマキリの卵のう



大きさ 3cm ほどで、ツノのような突起が出ているのが特徴です。

③ オオカマキリの卵のう



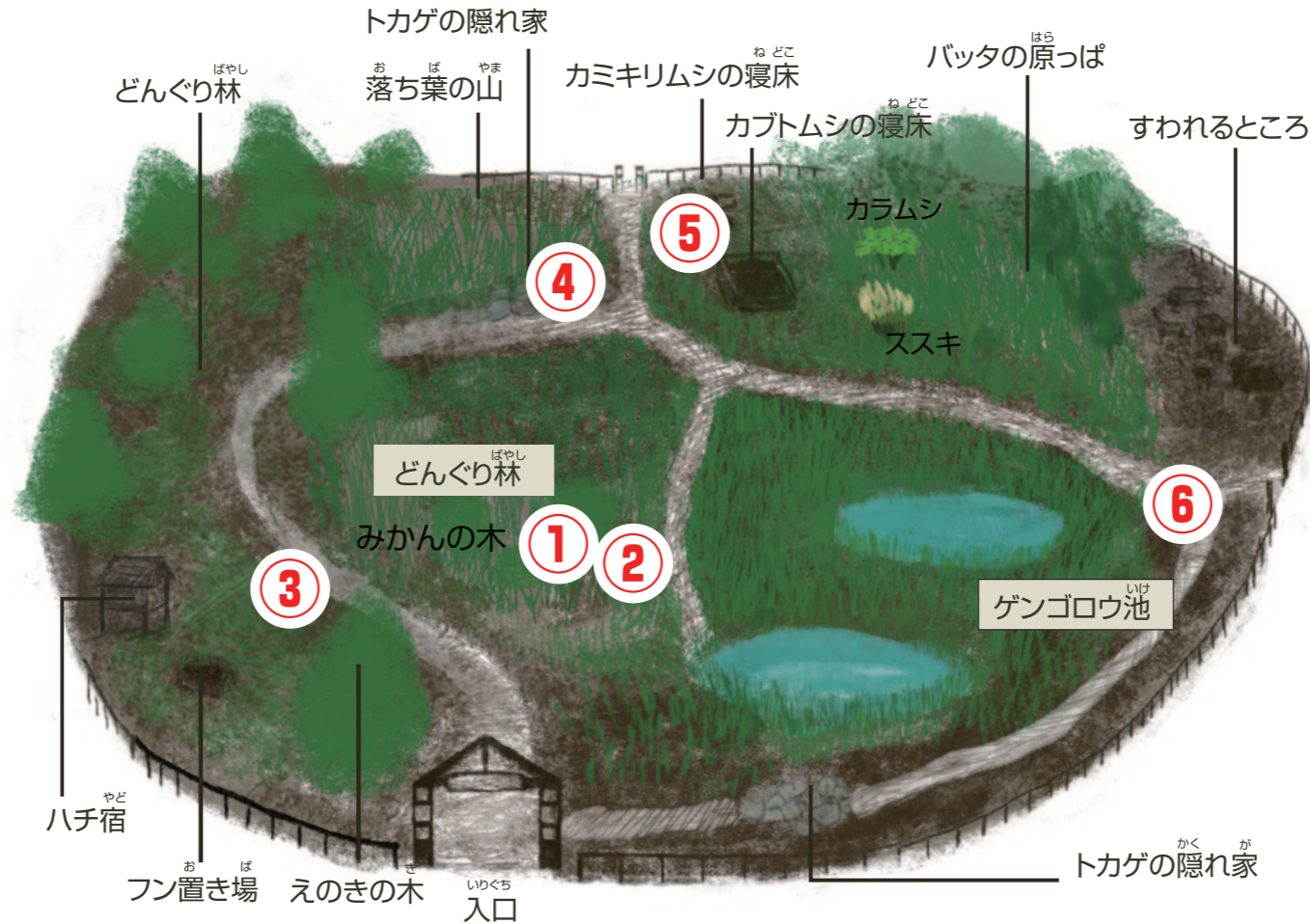
大きさ 3cm ~ 4cm で、大きいマシュマロのような形をしています。300 ~ 400 個ほどの卵が入っています。

④ ヤブランの実



9月に紫色の花を咲かせたヤブラン (左上) は、今は濃い紫色をした実を鈴なりに付けています。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。寒さも本格的になってきたこの頃、いきものたちは落ち葉や土の下に隠れて冬越しの最中です。



⑥ ヒガシニホントカゲ



観察ボード (右下) の下にトカゲが潜っていました。冬を越すため、温度変化の少ない土の下に潜っていたところだったのでしょう。

⑤ カブトムシの幼虫



カブトムシの幼虫は夏の終わりから秋にかけて腐葉土を食べ、子供の手のひらほどもある大きさの「3齢幼虫」に成長し、冬を越します。

落ち葉を投入しました

広場内の落ち葉の山やカブトムシの寝床に、動物園内で集めた落ち葉をたくさん入れました。来年の夏に向けて腐葉土になり、カブトムシの幼虫たちがみられることでしょう。

